

# 質疑・討論

## 参加者

伊賀司(神戸大学)／加藤剛(総合地球環境学研究所)／河野元子(政策研究大学院大学)／塩崎悠輝(同志社大学)／篠崎香織(北九州市立大学)／鈴木絢女(福岡女子大学)／鳥居高(明治大学)／西芳実(京都大学)／山本博之(京都大学・司会)／吉川洋子

**伊賀司** 塩崎さんに質問です。PASの華人の取り込みについてです。PASは少し前にPASサポーターズ・クラブを作りました。今回の選挙では華人がPASから立候補しています。党内でこのような動きはどのように考えられているのでしょうか。

## ■ PASにおける非ムスリム、華人とサポーターズ・クラブの位置づけは

**塩崎悠輝** 華人に関する党内の動きはおっしゃるとおりで、サポーターズ・クラブを作ったり、華人の候補を立てたりしています。華人の候補を立てることについては、華人のムスリムの議員は前からいましたが、非ムスリムの華人候補者は今回初めて立てました。ただし選挙で負けています。ジョホール州から出て、相手はMCAの大臣でした。非ムスリムの候補者を立てることについて、PAS党内には大した反対はありません。ジョホール州で立てたことが大きくて、MCA相手に立てたのはダメもとでしょうね。

**伊賀** 政党内で非ムスリム、しかも華人の位置はどうなっていますか。変化しているのでしょうか。PASサポーターズ・クラブも、PASの組織上、公式の組織として認められたのではなかったのでしょうか。

**塩崎** 党内の位置づけから言えば、従来PASにはウラマー部(Dewan Ulama)、青年部(Dewan Pemuda)、ムスリマ部(Dewan Muslima)があって、新しくできたものもこれらの「部(dewan)」の位置づけになっています。次の党大会では、代議員として投票権があるはずです。

## ■ 「プロフェッショナル」と「ウラマー」とはどのような関係にあるのか

**伊賀** PAS内部は一般的に「プロフェッショナル」と「ウラマー」とに分けられます。今回はプロフェッショナルと言われるフサム・ムサラが敗れましたが、今後どのようなようになっていくのかをお聞きしたいのですが。

**塩崎** ウラマーとプロフェッショナルは学歴の問題

で、中東や国内でイスラーム諸学の高等教育を受けていればウラマーと分類されますし、欧米や国内で欧米風の高等教育を受けていればプロフェッショナルと分類されます。

そういう意味で、PAS党员にはウラマーとプロフェッショナルがいますし、高等教育を受けていないなどの理由でどちらにも属さない党员もいますが、これらの分類は教育を背景にしたものにすぎず、思想や政策が分かれる基準ではなく、両者が対立しているというのは完全な誤解です。むしろ、指導的な党员の間でクランタン系とトレンガヌ系が対立しているというほうが実態に近いです。

PASの公式な指導原理としてウラマーの指導があり、ウラマー評議会が最高決定機関であるという体制はあります。それに異論を唱える人は、ウラマーにもプロフェッショナルにも、少なくとも表向きはいません。

## ■ PASにとって目下の最大の問題はBNと組むか、PRと組むか

**塩崎** PASの内部で揉めているのはUMNOと組むかどうかです。BNと組むか、PRと組むかです。PAS党员のなかでもABIM出身者は、元ABIM総裁であるアンワル・イブラヒムに付きますが、クランタン州はPAS単独で州政権をとれる現状があって、ニック・アジズ周辺はPRと組む路線を支持しています。PAS単独では州政権がとれず、UMNOと選挙協力をしたほうが有利なスランゴール州、トレンガヌ州、ムラカ州、ヌグリ・スンビラン州、クダ州の一部あたりは、UMNOと組んでもいいと思っています。

あとはニック・アジズとハディ・アワンの思想的な違いがあります。法(シャリーア)の統治を重んじ、シャリーアに基づく制度さえ整えられればよいと考えるトレンガヌ出身のハディ・アワン総裁はUMNOと組みやすいのに対して、自身の人徳によって人々を善導しようとするスーフィー的な発想を持つニック・アジズは、UMNOの政権下ではイスラーム的な統治はできないと考えています。

## ■ サバ大学出身エリートの政治的動向はUMNOや野党の今後にどんな影響を与えるか

**加藤剛** 山本さんに質問です。数は少ないとは言え、サバ大学(UMS)が着々とエリートを輩出しているようです。たしかサラワク大学よりサバ大学は歴史が長いですね。先ほどの塩崎さんの話で、半島部のUMNOが「公務員はおれたちのものだから心配ない、それをとられないかぎりUMNOは安泰だ」と言った

という話でした。おそらくUMSの学長は半島部出身ではなくてサバ人で、先生たちもかなり入れ換えてサバ人が多くなりつつあるのではないかと思います。

当然そこで勉強している学生もサバ出身者が増大していると思われるなかで、そして就職先もサバが多いと思いますが、彼らの政治的動向はどうなっているのですか。彼らの政治的動向が、UMNOのサバへの進出とか、野党の今後期待される影響力の増大などに、どのような影響をもってきた、あるいはもっていると考えられるのか。

**山本** まず問題を整理させてください。サバ大学で学ぶ人には二つの種類があります。一つは高校を卒業して進学した大学がサバ大学だった人たちです。サバ以外の州の出身者が多数派で、卒業後はサバで仕事を探す人もしくはありませんが、サバには仕事はあまりないので半島部やサラワクに戻って就職先を探すことが多いようです。

もう一つは、すでに長く働いている人たちが大学で学ぶという場合で、ほとんどがサバ出身者です。基本的に公務員で、年齢は30歳代や40歳代が多く、高校卒業の資格が得られずに大学に進めなかった人たちがいったん休職して大学で勉強しています。もともと公務員という就職先があるので、大学を卒業して就職先を探すということではありません。

**加藤** 経年的には、高校から入る人も増えているのではないのですか。どのようなかたちにしろ、大卒でそれなりの将来の道が約束されているサバ人が、すでに公務員であるか公務員ではないかは別にして、増えているのではないか。彼らの政治的なオリエンテーションはどこを向いているのかということです。それがサバの政治の将来に、あるいはこれからのUMNOの進出などにどのような影響を与えるのか、与えないのか。

#### ■ サバでは「公務員＝与党支持」とは言えず アピールの効果は限定的

**山本** サバには仕事が少ないのでサバ出身者が大学を出たら将来が約束されているかと言えばそれはかなり怪しいのですが、そのことはここでは考えずに、大学を出て将来が約束されていると外から見える人たちというように考えてみます。公務員はBN支持という話がありましたが、サバではそう言い切れるものではなく、公務員にもBN支持者とPR支持者がそれぞれいます。

私の観察ですが、1990年代半ばくらいまでは、公務員は少なくとも表向きはBN支持と言わざるをえず、

野党支持とさえ職を追われるという雰囲気がありました。個人的に話をすると現政権への批判や野党への支持を教えてくれている、他人がいる前では言えないという人が多く、職場で話すときは部屋の電話がどこかにつながっていて話が他人に聞かれてしまうことをとても気にしたりしていました。

しかし、1999年の選挙のころから、公務員にも与党支持者と野党支持者のどちらがいてもいいと公然と言われるようになりました。選挙運動の際に与党議員が関係する部局の公務員を集会などに動員したりしていた慣例についても、動員を強制するならば選挙違反の疑いがあることや、公務員でも投票の際には野党に入れてもかまわないことが確認され、公務員に伝えられていました。これは、誰かが公の場で問題にしたために公式見解として出されたものだと思います。

このように、少なくともサバでは公務員だから与党支持ということではありません。それぞれの地元で政治家とどのような関係を結んでいるかといったことで支持を決めているように思います。

**加藤** ということは、公務員にアピールすることは選挙キャンペーンの強調点になっていないのですね。

**山本** 与党連合が選挙キャンペーンで公務員や元公務員に支持を訴えることは、これまでも行なわれてきました。今回の選挙でも、BNは公務員に強くアピールしていました。「自分たちが給料を払って食わせてきたのだから、その恩を票で返してくれ」という言い方をしていましたし、それを受けて、「だから元公務員は政府に投票するんだ」と言う人たちもいました。

もっとも、サバではこれまで9年ごとに州政権が変わっており、現在はBN州政権ですが、その前はPBS政権で、さらにその前は別の政党が与党で、9年以上勤めていれば複数の州政府に奉職することになります。州首相もその間に何人も変わっているし、議員も与党と野党のあいだで何度もくら替えしている人たちもいます。「公務員だから政府に投票を」と言っても、支持の対象が一様に定まるわけではなく、そのような指摘もされていました。

#### ■ 「イスラム国家建設」を掲げることに PAS内部での対立はあったのか

**鈴木絢女** 塩崎さんに質問です。先ほど伊賀さんが質問されたこととほとんど同じです。私も人づてに聞いたり新聞等々を読んだりするなかで、PASの党内ポリティクスは、イスラム国家建設という党の目標があって、それをそのまま進めるのか、それともPRと

協力するから止めるのかをめぐると理解して  
いました。

前者、つまり「どうあってもPASはイスラム政  
党ということを前面に出していくべきだ。なんなら  
イスラム刑法の導入も前面に出して言うべきだ」と  
いうグループ——私は「コンサバティブ」と聞いていま  
すが、そのグループがいる。他方で、「そんなことを  
言っていると、いつまでたっても政権をとれない。連  
邦レベルで勝たないといけないから、イスラム憲法  
とかイスラム国家建設の話はなしにしよう」と言っ  
ているリベラルの人たちがいる。そしてニック・ア  
ジズとリベラルの人たちがくっついて現在のPASを  
ずっと押してきていて、そのなかで先ほどの塩崎さ  
んの発表にも出てきたナシャルディンのようなコン  
サバティブと言われていた人たちが落ちていったと  
いうのが私の理解でした。まずはその理解が正しい  
のかをうかがいたいです。

そして、それが正しかったとして、先ほど伊賀さん  
がおっしゃったように、リベラルの人たちがけっ  
こ負けましたね。マット・サブ(Mohamad Sabu)も  
負けました。PASのなかでこれまで強い影響力をも  
っていたと言われていたリベラルの人たちが負けたこ  
とのインプリケーションはとても大きいのではない  
かと思いますが、どうでしょうか。

### ■ イスラム国家樹立の目標に違いはなく その実現に向けた方法論の違いが対立軸に

**塩崎** いろいろなことが誤解されています。まず「コ  
ンサバティブ」と「リベラル」というのは華人のジャー  
ナリストが外から勝手に言っていることです。PAS  
の議員なり活動家なりが「リベラル」だ「コンサバティブ」  
だと自分で名乗ることはまずありません。党内で  
はそういう言い方はしません。華人等のジャーナリス  
トがなにをもって「コンサバティブ」とか「リベラル」  
と言っているのかはよくわかりませんが、それはと  
もかく、党内の対立軸は「どうすればイスラム国家  
が建設できるか」という方法論です。目標が違うので  
はなく、戦略が違うのです。

ようするに、イスラム国家樹立という目標を  
UMNOと組んだほうが達成できるのか、PRと組んだ  
ほうが達成できるのかです。UMNOと組んだほうが  
達成できると主張する人たちは、他に道がないと考  
えているからです。同じマレー人どうし、ムスリムどう  
しで組んで多数派をとり、マレー人だけで政権を動  
かせるようになれば可能性があると考えています。

ニック・アジズはそれに反対です。「UMNOと組ん  
でもろくなことにならない。騙されていいように引  
きずり回されるのがオチだ」というのが彼の考え方  
です。彼が考えるに、イスラム国家を実現するには  
PASが第一党になるしかありません。UMNOと組む  
のではダメで、UMNOをつぶしてPASが第一党にな  
らない限り実現できません。彼はリアル・ポリティク  
スの人なので、そういう考え方をします。

ナシャルディン前副総裁はUMNOと組んでイス  
ラム国家という目標を達成できると思っていました  
が、そんな甘いことはないというのがニック・ア  
ジズの考え方です。ニック・アジズは、もしPASが  
第一党になればUMNOと組むことを平気でやりかね  
ない人だと思います。これは政治で、リベラルうんぬ  
んということではありません。イスラム思想の違い  
ではなく、戦略的にどちらが有効かという話です。

ムハンマド・サブヤカマルディン・ジャアファル  
(Kamaruddin Jaafar)はABIM出身者なので、アン  
ワルが外から操縦している部分があるのですが、ム  
ハンマド・サブは達者な政略屋で、思想で動くタイプ  
ではなく、リベラルうんぬんという話ではありません。

彼らが負けたことによるインプリケーションです  
が、まずニック・アジズがクランタン州の州務大臣  
を辞めました。責任を取らされたというかたちではあ  
りませんが、党内にはややその雰囲気があります。も  
ともとPASは立候補しても落ちる人のほうが多いの  
で、落選したから責任を問われることはそんなにあり  
ません。ただし、党全体の戦略を指導したことの責任  
はあります。フサム・ムサ副総裁補もそうで、彼も負  
けたあとすぐ巡礼に行ってしまいました。

これでどうなるかということとは言えませんが、ニッ  
ク・アジズの戦略が間違っていたのではないかとい  
う見方は出てきています。これで直ちにUMNOと組  
むかという、いくらなんでもすぐにはないと思  
いますが、戦略の見直しを迫る動きはあります。

### ■ クダ州でのPRからBNへのスウィングに マハティールの影響はあるか

**伊賀** 午前中の議論でも少し出ていましたが、「クダ  
・ポリティクス」についてお伺いします。今回はなぜク  
ダ州の多数議席がPRからBNに変わったのか。一つ  
は塩崎さんがおっしゃったように、州務大臣の政治  
的実績がよくなかったとか、彼がすごく病気がちだ  
ったということがあると思いますが、クダ州というこ  
とで言うと、マハティールの影響なのではと思  
います。

2008年の総選挙では、マハティールは基本的に反アブドラ首相でした。そのときに聞いた話では、UMNOの組織が動かなかったそうです。マハティールにシンパシーを抱くクダ人が多くて、UMNOの組織が動かなかったことから、その隙についてPASが入り込むことができたと聞いています。今回は、後任の州務大臣がマハティールの息子のムクリズ・マハティールになりましたし、今回マハティールはクダ州だけでなくいろいろなところで選挙演説もしています。「マハティールイズム」と鈴木さんもおっしゃっていましたが、BNあるいはUMNOのなかのマハティールの影響をどうお考えでしょうか。クダ州に関連してでもクダ州以外でもいいのですが。

**塩崎** 影響はあまりないのではないですか。演説の影響は数値化できるものではありません。ムクリズはこれからの人なのでわかりませんが、引退したマハティールがなにをしてくれるわけでもありません。仮にマハティールの政策が評価されていたとしても、それはこれからを決める選挙とは別の話だと思います。

PASがクダ州でなぜ負けたかという、クダ州はどの選挙区も接戦でした。5%とは言わずとも、全体で3%くらいスウィングしていれば州政権はPASのまま維持されたと思います。結果としては大敗で、PASに投じたマレー人票が減ったとしか思えません。バリン、ブンダン、クアラ・クダといったマレー人が多数の選挙区で負けています。もちろん、クダ州でPASの獲得したマレー人票が減ったからといって全国的にそうだとはいえず、スランゴール州とかトレンガヌ州ではむしろマレー人が多い選挙区でPASが勝っています。

すぐ思いつく理由は、アジザン・アブドゥル・ラザク (Azizan Abdul Razak) という州務大臣が病気で執務できなかったのに他の人に交替しなかったことです。政策自体は可もなく不可もなく、マレー人のあいだではそれほど評判が悪くなかったと思いますが、パッとしませませんでした。

#### ■ スルー王国軍侵入事件の背景にある フィリピン側、サバ側双方の事情

**吉川洋子** 私はフィリピンの研究者なので、山本さんにスルーの事件の経過をもう少し詳しくお話しいただきたいと思います。

**山本** 「スルー王国軍」の兵士を名乗る人びとがサバ州の東海岸に侵入して村に立てこもり、マレーシアの警察や軍との銃撃戦を経て全面的な掃討作戦が展

開されたという事件は、マレーシア政府が情報をなかなか出さないところがあって、そのためにいろいろな人が一方的な話を好き勝手にいろいろ話しているところがあるように思います。マレーシアの軍・警察なり政府なりがきちんと情報を出せばいいのですが、それをしないばかりに「フィリピン側でこんな話を聞いた」という話があたかも事実であるかのようにそのまま語られてしまったり、「マレーシア側でこんな発表があった」という内容がそのまま語られてしまったりしています。これはマレーシアの軍・警察のやり方が下手なんだと思います。

その意味で、なにながどう起こってどうなったのかはまだよくわからない部分がありますが、背景としては、フィリピン側とサバ側にそれぞれ事情があったようです。フィリピン側では、南部フィリピンのMILF (モロ・イスラム解放戦線) とフィリピン政府とのあいだで包括的な枠組み合意の話が進んでいて、その会合が今年2月にクアラルンプールで行なわれました。南部フィリピンにはさまざまな勢力がいて、そのうち一つであるスルーのスルタンの末裔であるジャマルル・キラムの家系は、フィリピン政府とMILFの和平合意のなかにうまく加わることはできませんでした。そのため自分たちの存在をアピールする必要があり、フィリピン外務省を通じてマニラ政府に働きかけたりしていたけれど、その働きかけがうまく通じず、ちょうどそのころクアラルンプールが和平の会合のホストだったこともあって、マレーシア政府を通じてフィリピン政府に状況の改善を求めたいという背景があったと理解しています。

サバ側あるいはマレーシア側にもいろいろな事情を抱えた人が関わっているようですが、どの人がどう関わったのかはまだよくわからないところもあります。まず、もともとサバの東海岸で土地を切り拓いてアブラヤシを植えていた人たちがいて、そこにフェルダという国営のアブラヤシ農園が入ってきたときに土地を徴用され、その補償金を求めてフェルダと対立して爆弾騒ぎを起こしたこともある人物がいました。

この人物が今回の事件のサバ側の中心的な仕掛け人だと言われている、選挙を前にフェルダから譲歩を引き出す交渉の手段として自分と関係の深いスルー系の人びとを招きよせたということです。「スルー王国軍兵士」たちが立てこもっていたのはタンドゥオ村ですが、この村には先ほど言った人物の家

があり、「兵士」たちはその家を拠点にしていたと言われている。

### ■ 「兵士」たちの移動資金を出した黒幕は サバの野党指導者なのか

**山本** それから、フィリピンから200人近い人たちがサバに来るためのお金を誰が出したのかということについて、これも最終的にははっきりしないところがありますが、フィリピン側から「マレーシアの野党指導者がお金を出した」という情報が出ています。これをマレーシアでは、「野党指導者ならアンワル・イブラヒムに違いない」ということで、BN側はアンワルが事件の黒幕だと批判し、PR側はそれに対してナジブによる自作自演だと批判するという事態に発展しましたが、フィリピン側は「サバの野党指導者」という言い方をしていたという話があります。

仮にサバの野党指導者だとすると、現在それにあてはまるのは2人に絞られます。未確認なので名前を直接言うことは避けますが、そのうち1人は東海岸のラハダトゥを地盤にしている人で、もう1人は内陸部を地盤にしている人です。どちらもサバ州の問題として国境警備と外国人人口の問題を主張し続けてきた野党政治家で、今回の事件をきっかけに、結果的に国境警備と不法外国人の取り締まりが強化されるという結果を得たと言えます。ラハダトゥを地盤にしている人は、今回の作戦によって自分の地元であるラハダトゥが大きなダメージを受けたことから、彼が絵を描いたわけではないだろうと思います。もう1人の野党指導者は、実際に事件の数か月前にフィリピンに行ってキラム家のスルタンを名乗る人たちと会っていたようです。

### ■ 連邦政府とサバの野党指導者が 事件を利用した結果としての掃討作戦

**山本** このように、それぞれの思惑が重なって始まったことだと思いますが、それがマレーシアの軍と警察による大規模な掃討作戦に展開したのは別の話だと思っています。フィリピン領からサバの東海岸に200人くらいが来て、一部は武装していたということですが、その程度であればサバの東海岸でしばしば起こっており、はじめのうちサバではあまり大きな問題になるようなこととして受け止められていませんでした。しばらくしたら戻っていただろうと思っていた人も多かったと思います。

しかし、今回は警察が包囲して兵糧攻めのようにして、限界に近づいたところで銃撃によりマレーシアの

若い警官が命を失い、後に幼い子どもを抱えた若い奥さんが残され、マレーシア国内の同情を集め、それをきっかけにマレーシア政府は総力を挙げた掃討作戦に踏み切りました。警官が殺されることも計算づくだったとは思いませんが、連邦政府もサバの野党指導者もフィリピン側も、それぞれがこの事件をうまく利用しようとして、その結果として事態が進んでいったのだらうと思います。

サバの野党指導者にとってみれば、連邦政府に長年要求し続けてきた国境警備と外国人問題について連邦政府がこの事件を契機に対応したという意味では好ましい結果が得られたと言えます。また、連邦政府にとってみれば、連邦全体でBNが過半数を維持するために重要なサバ州で、地元からの長年の要求であった国境警備と外国人問題への対応を、かなりの勢力を投入してデモンストレーションすることができ、BN支持の票を固めることができたという意味で好ましい結果になったと言えます。平和的な解決が十分に可能だったはずで、本来なら失われる必要がなかったはずの数十人の命を犠牲にして、連邦政府とサバの野党政治家がそれぞれ自分たちに望ましい結果を得たという出来事だったように思います。

### ■ マレーシアの社会属性や投票行動分析について 有効な数量的調査は可能か

**吉川** 塩崎さんの報告を聞いていて、私の専門のフィリピンから見ると、とても複雑な社会的情勢が入り込んでいるように感じられます。一般国民の考え方のこれだけの大きな変動期には、もう少し大きな変動要因がなにかを捉えるために、私たちは、ふつう3,000人とか4,000人ベースの社会属性および投票行動分析をします。

マレーシアではセンシティブ・イシューが関わるので人種や宗教に関わる設問は設定できないかもしれませんが、先ほど加藤先生がおっしゃった政治意識の変容とか、市民の政治心理の分野、それから属性でも、世代間分析や地域分析などを行ないます。選挙の投票結果だけからでは明晰な因果関係や意義づけが推測になるように思います。「エキスパートだからわかる」と言われてしまえばそれまでですが、説得力のある議論をするためにそういう調査方法は許されていないのですか。

**塩崎** 数量的な調査については、私自身は専門外なのでしませんが、許されているかどうかについては、中村正志さんのご発表と討論のなかでも出てきました

が、世論調査は行なわれています。

ただし、世論調査が世界のどこでも行なわれているとは私は思いません。たとえばシリアでそういう調査がまともにされたことはないし、エジプトでもまともにされたことはないですし、アフガニスタンでもしていません。マレーシアはそのような調査が許されない国なのかというと、少なくともそういう調査結果が発表されています。

今回の総選挙の直前に行なわれた世論調査には、主なものでも、マラヤ大学、ムルデカ・センター、マレーシア北部大学によるものがあります。ただし、そのような調査結果が発表されたからといって、中村さんも「歪曲」と言われましたが、自由な調査がなされているとは限りません。マレーシアのメディア全般を通して言えることですが、コンテンツは豊富ですが、それを政府がうまく操作しているというのが特徴だと思います。

**吉川** 研究者によるプロジェクトはないのですか。

**塩崎** あります。大きな予算がついてアウトプットがあるのですが、それに政府が関与していないかという議論はどうかと思いますが、マレーシアはそういう調査などで政府による関与が発達した国だと思います。実際にどうかは私は知りませんが。

#### ■ 公務員の給料値上げやフェルダへのばらまきは どれほど与党にプラスに働いているのか

**伊賀** マレー人の政治について塩崎さんに質問です。公務員の話もフェルダの話も出ましたが、今回の選挙が公示される直前くらいまでに、公務員の給料値上げやフェルダへのばらまきがありました。

感覚としてお答えいただければいいのですが、これは実際にどのくらい効いているのでしょうか。とくに公務員に関しては、いろいろ批判はありますが、全般的に給料体系が少しずつ上がっているということが選挙の直前にありました。

**塩崎** 「わかりません」というのが正確なところですが、「感覚として」ということですので、その限りでお答えします。ばらまきは選挙前に毎回するのが定番ですので、しなかったら問題になるけれど、しても大してプラスにはならないと思います。

これは質問されていることではありませんが、公務員を含むマレー人の票がもっとも割れたのは1999年の選挙のときです。おそらくアンワルが捕まったのが最大の要因ですが、1999年以外でマレー人が公務

員を含めて大きく割れたことは基本的にありません。1999年は、PASが野党でもっとも議席を多く、27議席を得ました。今回もPASは同じことを狙ったのですが、今回はそれができるだけ決め手がなかったということだと思います。

#### ■ PASとDAPとの関係は変化したのか PRのマニフェストはどのように成立したのか

**鳥居高** 最初の質問に戻るのかもしれませんが、あまり像を結ばないのでお尋ねします。PASは「第一党になってイスラム国家を建設する」ことは目標から下げていないのですね。鈴木絢女さんが配ってくれた資料のマニフェストを見ても、「イスラムの国教としての地位の支持と宗教の自由の尊重」となっています。ここで収まったということは、DAPとの関係において、DAPの役割がなにか変わったのでしょうか。もし塩崎さんの説明のとおり、「マレー人の第一党になって、最終的にはイスラム国家を建設する」ということを捨てないのであれば、二大政党制にはなりえません。BNがなぜうまくいったかという、互いにエスニックなものを少しずつ削ぎ落として、中庸をとっていったところがBNの強みです。

お聞きしたいのは、今回のDAPとPASとの関係、とくにDAPが変わったのかというあたりのことです。あるいは、PRのなかでマニフェストを作るときに、PASとの関係でいうと、これでよく収まったなということ。そうでないと、二大政党制は成り立つかという議論ができなくなる気がするの、そのあたりについて教えていただけますか。

**塩崎** まず、二大政党制ができなければならないとして、できるのであればPASとUMNOが与野党に分かれている必要があると思います。PASとUMNOがくっつけば、そこが単一党優位になります。

マニフェストがなぜこれで収まったのかということ、私は選挙のための野合以外のなものでもないと思っています。当然PASのなかも揉めています。内部を収めるのは「これでないと第一党になれない」という話です。私は、PASが第一党になってしまえば、このマニフェストをかなぐり捨ててもぜんぜんおかしくないと思います。PASが第一党になっていけば、UMNOと組む可能性のほうがおそらく高かっただろうと私は思っています。

#### ■ PASの候補者の決定方法と PASとPKRの対立軸は

**河野元子** PASは今回新しい候補者をかなり立てま

したが、それをどのようにして決めたのでしょうか。PASとPKRの調整がうまくいかなかった選挙区がいくつもあります。候補者選びをめぐる、PASとPKRにどのような対立軸があるのかを教えてください。

**塩崎** PASの候補者の選定プロセスは、BNと同じように、支部が提出した候補者の希望リストを各州でまとめたものを党中央に送って、党中央が決めます。PASが他の政党と違うのは、最終的な決定権はウラマー評議会にあることです。候補者はウラマー評議会に全部決める権限があります。結局は党最高指導者でウラマー評議会議長であるニック・アジズの意向が最も重要ですが、この評議会が候補者をはじくことがけっこうあります。

どのようにして調整したかと言えば、ウラマー評議会に一任したということです。そうなると、結局はニック・アジズの意向です。すくなくとも、最終的な責任者は彼です。

PKRと候補者調整がつかなかったところは、トップ・ダウンで調整するしかないですね。州単位ではとてもまとまらないし、そもそも権限がないので、党のいちばん上で決めることです。それこそニック・アジズとアンワルが電話で話を決めて決めることです。

### ■「サバ人」という枠組みにこだわらずとも州の自主権を回復できると考える可能性は

**鈴木絢女** 山本さんに質問です。「サバ人のサバ」が報告のキーワードになっていたと思いますが、それはどのくらい重要なかがいま私には伝わってきませんでした。お話を聞く限り、サバの多くの議員もしくは政党が、サバの自主権を重視しているようです。自主権を重視してその実現を目標にすることを考えたときに、「サバ人のサバ」でまとまる必然性はあるのかなと思ったりします。

というのは、今回PKRが「東マレーシアを重視している」と大々的に言っていて、新聞報道やマニフェストを読んだり、スピーチを聞いたりすると、「サバ州とサラワク州の連邦における地位を尊重する」ということで、たとえば「石油のロイヤリティを5%から20%に上げます」などはっきり言っています。

そうすると、「サバ人のサバ」というかたちでまとまらなくても、PRとくつつくことでサバ州の自主権を回復できるという考え方に至る可能性もあるのではないかと思います。「サバ人のサバ」というまとまりがないと自主権を回復できないということなのか、それとも「サバ人のサバ」にはこだわらなくても、どん

な人とでも組んで、サバの自主権を回復できればいいという考え方になっていったのか、そのあたりのことをお聞かせいただければと思います。

**山本** はじめにお断りしておく、現在のサバには「サバ人のサバ」と言っている人はほとんどいません。鈴木さんもお存じのとおり、マレーシアのスローガンは特定の政党や指導者と結びついて受け止められます。「サバ人のサバ」はPBSのスローガンなので、PBSが2003年にBNに入ってから表だって掲げられることはありません。

同じ内容でも違う言い方をしなければならず、今回は「サバの自主権」という言い方が出てきました。ただしこれは野党のSAPPが唱えているスローガンなので、BNに所属するサバの政治家たちは、仮に感情的にこれを支持していたとしても、「サバの自主権」という言い方はまったくしません。

### ■ 華人にとってサバという枠組みは自分たちの力を拡大するうえで意味がある

**山本** さて、サバ人という枠組みにこだわる必要があるのかということですが、半分は鈴木さんのおっしゃるとおりで、自分たちがサバであることを強く主張しなくても権利がもらえるのであればそれでよいという考え方もあります。今回の選挙で半島部の政党とくつつく動きが出てきたのも、それとの関係で理解できると思います。

ただし、サバの華人に目を向けると、半島部と一緒にになると彼らは華人という扱いになり、ブミプトラの下で十分な権利が得られないという状況に自らを置くことになってしまいます。

サバでは、華人はブミプトラではありませんが、半島部とは違ってブミプトラの権利に近いものを得るためのいろいろな抜け道があります。それはサバだからこそ可能な抜け道ですが、マレーシア全体で華人となるとその抜け道は使えなくなります。それを手放すのは惜しいというか、そこを足場にして自分の力を拡大していく可能性が残されているということで、サバという枠に意味があるのではないかと思います。

サバという枠組みを重視するのは華人だということに関連して、今回「サバの自主権」というスローガンを掲げたのはSAPPです。SAPPは多民族政党なので華人政党と呼ぶのはやや問題がありますが、SAPPが華人を主要支持基盤としていることは確かです。そう考えるならば「サバの自主権」という言い方が華人

社会から出てきたという考え方も重なります。

また、今回の選挙から少し話がそれますが、今回の選挙でサバの地元政党やその支持者たちが動画を作ってサバの自主権を訴えており、そのもとにあるのは、去年の8月の独立記念日のころに流行した『オラン・サバ・スタイル』という動画だと思います。韓国の『江南スタイル』が大流行したとき、世界各地でパクリの動画が作られました。それらのうちかなりよくできているものの一つに『オラン・サバ・スタイル』つまり「サバ人スタイル」があって、マレーシアでは本家の『江南スタイル』よりも人気でした。

この動画を作ったのはサバの客家系華人で、全編客家語で「自分たちはサバ人(オラン・サバ)だ」と歌っています。「自分たちはサバ人だ」と歌う動画が客家語でいいのか、サバのすべての民族に開かれたマレー語で歌うべきではないのかといった議論もありましたが、これは、そういう議論が起こったことも含めて、サバの華人が「自分たちはサバ人だ」と言っただけで自分たちの立ち位置を主張し、議論しようとする試みだったと理解できます。そこに「サバの自主権」を訴える動画の源流の一つがあるように思います。

#### ■ 半島部に対するサバの交渉力、緊張感ほどのぐらい維持できたのか

**西芳実** 今回の選挙を通じて、サバが半島部に対してどれくらい交渉力を維持できていたのかについてお聞きしたいと思います。

結果としてサバではUMNO優位が確立したということで、少なくともサバのムスリム原住民はUMNOを支持するか、UMNOに入ることで力をつけようとしたというお話だったと思いますが、UMNOに入ることで依然として交渉力がもてるという状況はどのようにして担保されるか考えればいいのでしょうか。

サバはBNからするとフィックス・デポジットだと言われて支持が堅いと考えられている面があります。でも、もう一方で連邦政府に「ある程度ご機嫌をうかがわれないとうまくいかない」と思わせているところがあるとしたら、それはどこに由来するのでしょうか。

**山本** いくつかのことがあります。まず、サバのUMNOは党员数が多いので、UMNOのなかでサバの人たちは相対的に大きな影響力をもっています。

もう一つは、政党間の移籍の自由度です。中村正志さんのお話で、UMNOから公認を得られずに無所属で出馬した元UMNO党员61人がUMNOから除籍されたというお話がありました。私が見た資料だと

UMNOを除籍されたのは58人でしたが、いずれにしろ全国で約60人がUMNOを除籍されています。興味深いのは、その半分の30人がサバ人だということです。サバの人たちは、UMNOは政党として堅いと思っていて、できればそこから公認を得たいと思っていますが、UMNOだろうが別の政党だろうが立候補する機会があるならどこからでも立候補するし、UMNOから立候補が認められないなら別の政党に移るということがしょっちゅう起こっています。堅いUMNOを辞めて他の政党に移ってでも立候補したいと考えるということです。

UMNOから公認がもらえないからと現職議員を含めて30人が別の政党に移ってしまったのはその表われです。このように、いつでもくら替えして他の政党から出ることもありうるので、UMNO側としても、ただ名簿を持っているだけでなく、もう少しきちんと人心掌握をしておかないといつでも逃げられるというか、噛みつかれるという関係にあるわけです。

もう一つは、これは印象的なことで、他の州と比べないとわからないのでどなたか他の州の事情を知っていたら教えていただきたいのですが、州議会選挙の公認候補を決めるときには、州のBNが候補者リストを連邦に持って行って、連邦のBNの総裁が承認して州の候補者リストが確定します。ところがサバでは、連邦のBNの総裁が確定させたりリストを州に持ち帰ったあとで変えてしまうことがしばしばあります。選挙のたびに何人か候補者の差し替えが見られます。

連邦の指導を受けるかたちをとっていますが、それはサバUMNOのメンバーが他の人たちに「連邦が言っているから」という口実のために連邦を使っているのであって、連邦が言うことにそのまま従っているわけではありません。このあたりにもサバ州の連邦に対する駆け引きが見られると思います。もっとも、他の州でも同じようなことがあるとしたらサバ州に限ったことではないということになります。

#### ■ PASの次代を担う幹部候補はどこの人材源から供給されるのか

**鳥居** 直接は関わらないかもしれませんが、今日の塩崎さんのご説明で、PASに三つの人材源があると理解しました。従来のポンドックや宗教学校から出てきたグループ、ABIMのグループ、それからエジプトなどからの留学のグループとなると思います。最初の人たちは、宗教学校が政府に取り込まれてなくなっています。ABIMのグループも、計算するともう65

歳や70歳です。そうすると、次のPASの世代はどのような人たちが来ているのかが知りたいのですが。

**塩崎** そういう理解でいいと思いますが、まずポンドックはもうマレーシアにありません。クランタン州などに十いくつありますが、子どもが学ぶ場所ではなく、ほとんど影響力はありません。ポンドックの社会的影響力だけで勝てる州議会の選挙区はクランタン州に二つあるかどうかです。私立宗教学校あるいは政府補助宗教学校に改変されていますが、教員たちは党組織の一部として一応機能しています。

ABIMについては、本体は相当先細りで、現在のABIMに若い人はほんとうに少ないです。OBがいろいろとまくし立てることはありますが、学生はABIMには来ません。

現在の若手は、アズハル大学帰りはほとんどPASが押さえています。中東留学組がなぜ増えたかということ、結局は政府のせいですが、政府は、宗教役人あるいは宗教学校あるいは公立学校のイスラームの授業の教員にするため、現在もアズハル大学に毎年2,000人くらいを送っています。これは州政府などのお金で行くのですが、この留学生組織はPASが押さえています。ずいぶん政府が介入していますが、みんなPAS支持者になって帰ってきます。サウジアラビアだろうが、ヨルダンだろうが、モロッコだろうが、パキスタンだろうがみんな同じです。ただし数としては大した数ではありません。

普通のマレーシア国内の大学生については、学生運動も70年代ほどではないかもしれません。全マレーシア・ムスリム学生連合(Gabungan Mahasiswa Islam Se-Malaysia: GAMIS)という学生運動組織の中でおそらく最大のものがあり、これは完全にPASの直属です。学生運動組織の人たちが、国内のプロフェッショナルの将来の幹部候補です。この人たちは、だいたい大学自治会に入っています。アズハル帰りはウラマーの活動家で、それらが幹部活動家の供給源としては大きいです。

#### ■ 外国人の増加と国境警備について

##### UMNOに批判の矛先が向くことはありうるか

**篠崎香織** 山本さんに質問です。UMNOと連邦政府が出てくるとどうしても半島部のほうを想像してしまうのですが、お話を聞いている分には、サバのムスリム系の人たちが連邦の力関係を利用してサバで基盤を確立して、力を持つ制度として使っているという話として理解できるかなと思いました。

もしそのように考えてよとしたら、外国人の増加と国境警備に関しては民族を問わずいろいろな人が不満をもっている問題だと思いますが、それにきちんと対応しないということで、ムスリムも州内のUMNOに対して批判的な立場をとることがあるのか伺えればと思います。

**山本** サバのムスリム系の人たちがサバで基盤を確立する仕組みとして連邦の力関係を利用しているかということについては、そのように言っていると思います。

二つめの質問は、「外国人の増加は民族を問わず不満をもつ問題で、それに対応しないと州内のムスリムでも政府に批判的な立場をとるのではないか」ということですか。

**篠崎** 州内でもっとも力があるのはUMNOで、半島部とつながっているのであれば、「お前たちがきちんと半島と話をしてくれればこんなことにならないだろう」というかたちでの不満が出ているのかどうかということです。

**山本** ほとんど出ないと思います。国境警備とか軍や警察は連邦政府の管轄なので、サバのなかでそれを問うことにはなりません。そうならない背景の一つは、ムスリム原住民にも正規のマレーシア国民ではない身分証明書をもっている人たちが含まれるからということもあるかもしれません。

サバの偽造IC(identity card)問題を解決するために、「サバのICを全部再発行しろ」という議論があって、人びとはみんな表向きは賛成だと言っていますが、ほんとうはそれをされたら困る人もけっこういるのではないかという気がするので、あまり強く言わないのかもしれませんが。

**篠崎** 与党支持以外の人も含めてですか。

**山本** そうです。

#### ■ 連邦の指導者を利用して

##### 面倒な問題を解決させるサバBN

**篠崎** 連邦政府の指導下というのは、どのようなことですか。

**山本** サバでBNがなにかを決定するとき、たとえば州議会を解散するとか、選挙の公認候補をだれにするとか、あるいはもう少し小さい決定も含めてですが、それをするとき、連邦のBNの総裁に承認してもらって、それをもとに州で発表することになっていて、まずそのことがあります。

それ以外に、本来はサバ内で解決すればいいけれど

自分たちでは解決しにくい問題があると、BNであれば「連邦のBNの指導者に聞いてみよう」と言い、半ば無責任に連邦のBNに「解決して」と丸投げすることがあります。丸投げされた側も困って「サバで解決なさい」と言うのですが、サバ側は自分たちには解決できないからと押し戻し、何回かやりとりしているうちに、「こんな解決方法はどうか」と連邦のBNから出すことがあります。

1994年の州首相輪番制がその例です。サバの州政治が安定しない理由は、3民族のそれぞれが州首相になりたくて争うためだということになり、当時のマハティール首相はその解決策を考えるようにサバBNに命じました。これに対して、サバ側が「考えたけれどどうしてもわからないから、連邦のBNに解決をお願いします」と言い、連邦が「対応はサバで考えろ」と戻し、これを3、4回やりとりして、仕方なく最後にマハティールが「それなら州首相のポストを三つの民族の輪番制にしてみたら」と提案しました。

それを受けてサバで輪番制を導入しましたが、実際に運用して問題が出てくると、マハティール首相に対して「あなたが導入しろと言ったのだから、あなたが責任をとって解決策を考えるべきだ」という発言をします。指導を受けると言っても、指導者の言いなりになるというより、自分たちの面倒な問題を指導者に解決させるとか、州内でうまく話を進めるために連邦の指導者の名前を使うということもあります。

**篠崎** 華人の政党のなかで揉めたときにマハティールに「なんとかしてくれ」と言うようなイメージですか。

**山本** そのイメージと重なるところがあります。

## ■ PASはなぜUMNOに「とって代われる」と楽観的な目標を掲げることができたのか

**加藤** 塩崎さんに質問です。UMNOが選挙を想定してばらまきを始めたのは2012年の初めくらいだと思います。末端では「いつ選挙があってもおかしくない」と言われながら、ナジブがなかなか選挙に踏み込めなかったのは、ひそかに世論調査をすると、少なくとも3分の2以上とれる大きなマージンで勝てる結果が出ず、何回やっても出ないので決断が延ばし延ばしになって今回に至ったと聞いたことがあります。

PASについて言えば、塩崎さんの報告を聞いていても、なぜ「UMNOにとって代われる」という自信を持ったのがよくわかりません。PASもUMNOのような事前世論調査をして、「これはいけそうだ」という予測を得たのか、あるいは、よくわからないけれど

も「従来と違うこのようなアピールをしたのでいけそうだ」とか、あるいはそれよりはむしろ「UMNOがたくさんいろいろな失敗をしたから敵失でできそうだ」と思ったのか。負けるようなスローガンで戦う政党はどこにもないにしても、なぜそんな楽観的な見通しで選挙戦を戦えたのかは不思議なのですが。

**塩崎** 結果的に見れば、あとから見ると楽観的で、負けた場合はだいたいそのように思われます。ナジブに限らず、マレーシアの首相は選挙前に少なくとも何回か調査をさせます。軍の情報部と警察のスペシャル・ブランチに調査させます。他にも学者たちがずいぶん動員されますが、首相がもっとも信用しているのは軍とスペシャル・ブランチの調査です。

選挙はずいぶん先延ばしになりましたが、PASには当然そのような調査をする機関はありません。そもそも、そんな明確な根拠があれば党内で揉めたりしません。「PRと組めば勝てる」と言っているけれども勝てるのか。それよりUMNOと組んだ方が党のために有利に働くのではないかと、ずいぶん揉めていました。揉めたあげく、結局はニック・アジズが抑えました。最後まで譲らなかったのはニック・アジズで、彼は「PRと組まなければだめだ」と言っていました。他の人は中立、あるいは「いまのうちにUMNOと組んだほうがいいのではないかと、いま組めば連邦の大臣が四つと、三つの州の州務大臣がもらえる」とかいう話でずいぶん揉めていました。

ニック・アジズはどこから出て選挙に負けたことがない人なので、ある意味で説得力がありますが、結局はニック・アジズの根拠なき自信で押し切ったというのが実際のところ。ラザレイ・ハムザ(Tengku Razaleigh Hamzah)元財務大臣も「自分もUMNOを出るからマレー人の第三勢力をつくらう」とかずいぶんちょっかいを出してきて揉めに揉めましたが、ニック・アジズが「自分の言うとおりにしたらいい」と言って通したというのが実際のところ。ニック・アジズは、クランタン州でのPASの単独政権を維持しつつ、党を一つにまとめるためには、こう言うしかできなかったと言えるでしょう。

**河野** いまのことと関連して、「ganti UMNO (UMNOにとって代わる)」は「ini kali lah – ubah (今度こそ——チェンジ)」というスローガンと違って、ずいぶん前からPASのなかで言われてきたことですか。

**塩崎** 新聞や機関紙に書くくらいですから外に秘密にしていたというほどではありません。

河野 スローガンなら納得できるのですが、スローガンではなくて、ほんとうにこのように党内でUMNOに代わるというように、2008年から……。

塩崎 すくなくとも、指導部の相当の部分は本気で思っていました。「ubah」と「ganti」とは、マレー語でちょっと意味合いが違いますね。「政権交代ができればなんでもいい」というのではなく、「とって代わる」ということです。言われたのは、2008年総選挙以降、党内の路線をめぐる内紛がニック・アジズの勝利に終わった後で、2011年ごろからではないでしょうか。

#### ■ PASが分裂して、UMNOとの連携が実現する条件はなにか

山本 最後に塩崎さんにお伺いします。これまでに何回か聞かれていることとも重なりますが、PASがUMNOと組む可能性というか条件についてです。PASが今回の選挙結果を受けて路線の見直しをしても、ただちにUMNOと組むということはないのではないかとのことでしたが、PASが二つに割れて一方がUMNOと組むような可能性というか条件はあるのでしょうか。

塩崎 条件というのは、党大会で決議されるという手続きが必要とかいうことではなくてですか。

山本 だれかが辞めるとか、だれかがどういう動きをしたとかいうことを含めてです。

塩崎 たとえばニック・アジズが死ぬということが考えられます。

山本 そうなったら、PASは二つに分かれて一方がUMNOと組むことがありえますか。

塩崎 分かれはしないと思いますが……。もちろん可能性の話ですが、PASがUMNOと組むという動きはニック・アジズが一人で抑えていたというのが実際に、ほんとうに忠実だったのはフサム・ムサくらいです。

山本 ニック・アジズが州務大臣を辞めて影響力が低下してくるということは、PASがUMNOと一緒にいる可能性が強まったということですか。

塩崎 ニック・アジズは党の組織のなかの最高指導者は辞めていないので、党の路線についてはまだ彼に決定権があります。

山本 では、党が二つに割れて、出て行った人たちがUMNOと組むということは考えられますか。

塩崎 分かれる可能性は少ないと思います。私は、ニック・アジズが死んでなにかが変わることのほうが起こりそうな気がします。